

## The dramatic changes of cumulus cell functions during ovulation process impact meiotic progression and fertilization ability of oocyte

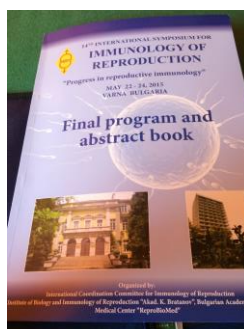
Masayuki Shimada, Associate Professor, Hiroshima University

Key note lecture, 14th International Symposium of Immunology of Reproduction, May 22-24, 2015, Varna, Bulgaria

2015年5月22～24日にブルガリアの黒海沿岸のリゾート都市 Varna(写真 1, 2)で開催された International Symposium of Immunology of Reproduction に参加し、講演を行ってきました。



この学会は、3年に1度ブルガリア科学アカデミー主催で開催されており、今回で14回目を数える歴史ある会です(写真3). 今回も欧州のみならず、日本、米国から100名あまりの生殖内分泌学の専門家が集い、毎日、朝8時から夜中までの激論によりそれぞれの研究を高め、そして親交を温める、活発な会となりました(写真4).



私は、生殖分野の研究者ですが本会の主眼である免疫分野から生殖学を研究するのではなく、内分泌学のアプローチから研究しています。しかし、網羅的遺伝子発現解析から免疫学に関わる抗菌ペプチドや Toll-like receptor が生殖細胞に発現することを見だし、発表してきたことから、6年前に続いての2回目の参加となりました。そのおかげで、10名程度の参加者とは顔見知りということもあり、パーティーでは米国からの参加者の中に加えていただけました。また、発表にはたくさんの質問をいただき、議論を深めることができました。